

「次は私が」

福岡市立早良中学校

入澤 寿羽

私は生まれつき聴覚障害で、補聴器を装着している。中学生に上がる頃、補聴器を買い換える時に「補聴器は税金から補助金が支払われていて、お金の負担が少し減ってるの。だから税金を払ってくれる人に感謝して大事に使っていきなさい。」と母に言われた。補聴器は本当に高額で、補助金というものを知った時から税金やそれを納めてくれる人、補助金を出してくれる国や県、市に感謝を忘れず、もっと大事に使っていこうと思うことができた。それと同時に、私が補聴器の補助金として助けられたように、税金がきちんと納められることで、誰かを何かの形で助けることにつながるのだとも思った。

税金のことをあまり知らなかったので、調べてみることにした。私たちが納める税金は国が社会保障関係費、地方交付税交付金、公共事業関係費、文教及び科学振興費、防衛関係費、経済協力費などに分けて歳出している。その中で社会保障関係費が一番多く歳出されている。それは私たちの健康や生活を守るために欠かせないものだからだ。社会保障費は年金、医療、介護及び子供、子育て支援、福祉に使われている。しかし今、社会保障はこの国で進んでいる少子高齢化に影響され、二つの問題が起こっていた。一つは、社会保障の費用が増えていくことであり、もう一つは、その費用を負担する働き手が減っていくことである。社会保障費は高齢化に伴い、最も重要な年金と医療方面の費用が増え続けている。そのため、働き手が減っていることもあり、働き手一人ひとりの負担も重くなることが考えられているのだ。

次に、私たちの身の回りではどんなことに税金が使われているのか調べてみた。まずは義務教育である小・中学校だ。教科書やパソコン、給食、教育費が税金による補助を受けている。他にも病院での医療費の一部、安全な生活のための消防や警察の活動、綺麗な町づくりのためのゴミの回収と処理。様々な所で税金が使われていた。それも、私たちのために。知らないだけで、私たちは税金にたくさん支えられていたのだ。

私は税金について知る前は「税なんてなくていいよ。」買い物をして、消費税がかかる度にそう思っていた。しかし、税金について調べ、知った今は税金は自分たちのために必要で、大切なものなのだと思う。私が補聴器の補助金として助けられたように、税金をきちんと納めることで、誰かを何かの形で助けることにつながる。自分が助けてもらったなら、次は私が誰かを助けたいと思った。だからこれからも税金に関心を持ち、調べ、知って、問題点について考えていきたい。そして将来は、誰かのためにしっかり税金を納められる人になりたいと思った。